

福井大学学術交流協定校への派遣留学（交換留学） 月例報告書（4月）

留学先：Clemson University

氏名： 黒川晶平

【はじめに】

福井に帰ってきてから1週間が経ちました。約9か月間に及ぶクレムソンでの留学が終わってしまったわけですが、その中でも最後の1か月は期末試験に追われながら友人たちとの別れもあり、中身の濃い日々を過ごしていたように感じています。

【多忙と別れの時期】



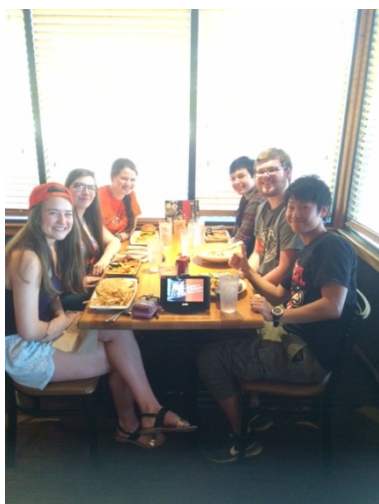
↑写真左：お世話になった教育の先生と 左：タップダンスの先生と

4月はとにかく忙しい月でした。各授業の期末試験期間は最後の週と定められているのですが、それに合わせて課題を終わらせなければならなくなり、春休み明けの次の週にはすでに課題づけの日々が待っていました。教授によって出す課題の種類は変わりますが、例えば私が取っていた教育の授業では、グループで学期を通して読み進めてきた本のまとめのプレゼンテーションを行い、それに応じたレポート、そしてクラスで学んできたことを基にした自分の将来の授業計画案を完成させることも命じられました。量自体はそれほど多くないものの、毎回の授業内容が大変濃かったために、振り返りや自分の考えを練り上げるのに時間がかかったり、プレゼンもいかに要点を押さえて話すか考えたりなど苦労しました。しかし、この教育のクラスでは、男子は私一人だったにも関わらずクラスメートの皆が受け入れてくれ、先生や友人の助けを借りてなんとか全て完成することができました。

その他の授業では、試験の他に期末ペーパーが課されました。地理のクラスでは、世界

で現在起こっている問題を自分で一つ選び、特定の地域と世界各国とのつながりを明らかにしながら真相を書き出す課題が出されました。私は日本のマグロを食す文化と世界の漁獲量にテーマを絞り、数々の資料をもとに消費量増加の背景と今後の展望を書きました。これも完成に時間はかかったものの、教授からは日本固有の文化と世界情勢についてよく書けているとの評価をいただき、自信ができました。日本文学の授業においても、現代日本の学歴社会とアメリカの受験システムとの比較についてレポートを書きました。課題が多くて嫌になっていた時期もありましたが、今こうして振り返ると、やったことの中で無駄なものはなく、むしろ自分の知識や興味を広げられた点で非常に貴重な体験だったと思います。

試験期間に入ると今学期の授業も終わりを迎え、同時にクレムソンを去る準備をしなければなりません。毎回様々なことを教えてくださった先生方や授業中助けてくれたクラスメート、1年間共に頑張った同じ交換留学生の友人など一人一人に感謝と別れを告げる時は、本当に寂しい気持ちになりました。中には私を手厚く送り出してくれる人もおり、TAを務めていた日本語のクラスの生徒はメッセージの入ったプレゼントと食事の招待をしてくれました。特につらかったのが、多くの時間を共有したルームメイトとの別れです。私が帰国の途につく際、日が昇る前の早朝にわざわざ起きて空港まで送り届けてくれました。別れ際、涙を流しながら抱き合った瞬間は一生忘れないでしょう。私も今まで散々きついことを言ってきましたが、本当に彼らと出会えて良かったと思いました。



【最後に】

言うまでもなく、クレムソンでの留学は素晴らしいものでした。よく学びよく遊び、たくさんものを見て触れて、これからの人生を死ぬまで支えてくれる貴重な経験を積むことができました。クレムソンで出会った友人や先生方、そして今回の留学に携わった全ての方に感謝しています。今後はさらに精進し、この経験を自分のキャリアに存分に活かしていきます。

最後まで月例報告書を読んでいただきありがとうございました。